

図書館インフォメーション

南部図書館 展示コーナー紹介



『どうかな？家康』

今年の注目人物は、「徳川家康」です。

どうゆう生まれで、どのような環境で育ち、何を学び、何を得、どういった成長を果たしたのか、ご存じですか？この機会に、「徳川家康」を取り上げた本を読んでみるのはいかがでしょうか？

入り口近く、展示コーナーに設置してあります。



『今年はうさぎ年』

飛躍の一年。

皆様は、何をがんばりますか？

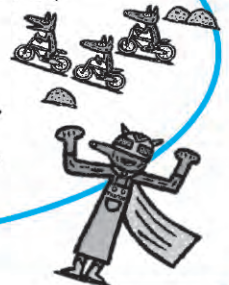
かわいいうさぎ、ちょっぴり残念なうさぎ、応援したくなるうさぎ、様々なウサギの児童書がそろっています。大人の方もこどもの方も、うさぎの本に出会ってみませんか。



南部図書館の名誉館長になった、

宮西達也 です。

今後とも南部図書館共々、
よろしく願いいたします。



3月の図書館の予定

- ・乳幼児リトミック教室
3月1日(水) (10:30~11:30)
- ・乳幼児おはなし会 のんたんの部屋
3月8・15日(水) (10:45~11:30)

※各種催し物は、新型コロナウイルス感染予防のため中止になる場合があります。なお、中止の場合はFM告知放送でお知らせします。

町立図書館では、年代別のおすすめ本の紹介などの情報を図書館だよりで配信しています。図書館だよりのバックナンバーは右のQRコードを読み取るとご覧いただけます。



美術館 (企画展の紹介)

宮西達也 原画展【ゲヘナランド展】

2月4日(土)~3月12日(日) 入場無料

世界で活躍する宮西達也氏に
【名誉館長】となっていただきました！

名誉館長記念ジオラマ
1階正面入り口にあります。
是非見に来てください！





今月の新刊情報



江戸一新
門井慶喜 著
中央公論新社



江戸が燃え尽きた「明暦の大火」。この大惨事に立ち上がった老中・松平伊豆守信綱は、町奴・花川戸の長兵衛を「斤候」として使いながら、「江戸一新」に乗り出した。

ここが終の住処かもね
久田恵 著
潮出版社



70代のシングルマザー。都会から移住した「サ高住」で気ままに暮らしていたが…。いまだときアクティブシニアのリアルな本音と暮らしをいきいきと描いた新感覚シニア小説。

なぜではなく、どんなふうに
アリアンナ・ファリネッリ 著
関口英子、森敦子 訳
藤井紗和 装画、中村聡 装丁
海外文学セレクション
東京創元社



差別が横行し、分断化が進むアメリカで、一人の女性と一人のムスリム青年が出会った。彼らの誇りと情熱がすべてを覆す。現代を生きる人に贈る哲学的な物語。

光のところにいてね
一穂ミチ 著
文藝春秋



古びた団地の片隅で出会った結珠と果遠。ふたりは何もかもが違った。着る物も食べる物も住む世界も。ひとつの愛に惑うふたりの四半世紀の物語。第168回直木三十五賞候補作。

三流シェフ
三國清三 著
幻冬舎



雑用こそ人生の突破口。誰より苦勞しても、その苦勞を見ている人は1%にも満たない。それでも「世界のミクニ」は必死に鍋を磨き続けた。料理界のカリスマ・三國シェフが半生を振り返る。

成熟スイッチ
林真理子 著
講談社



人は年をとると外見だけではなく内面も変化していく。自身の成熟の現在地を明かしながら、「人間関係の心得」「世間を渡る作法」など4つの成熟のテーマについて語る。

橋下徹の研究
百田尚樹 著
飛鳥新社



圧倒的影響力を誇る日本のコメンテーター・橋下徹の膨大な言動をベストセラー作家・百田尚樹が徹底検証。これは単なる批判本ではない、警世の書ともいえる一冊。

めげずに生きていく
佐藤愛子の言葉
桑原晃弥 著
リベラル社



後ろを振り返って嘆くより前に進み続けよう、人生は他人任せではなく自分の力で生きていけ、今も昔も顔は「人生の象徴」である。起伏の激しい人生を送った佐藤愛子の、スパッと痛快な言葉を紹介する。

おすすめ

臼田亞浪の百句～寂しさの旅人
西池冬扇 著 ふらんす堂



主に大正と昭和期に活動し、最盛期には旅から旅を重ね、「寂しさ」を基調としたその時代にマッチした俳句を残した俳人、臼田亞浪。俳句を高浜虚子に師事し、後に新傾向と保守との中間派として多くの後進を育成しました。南部町出身の水墨画家、近藤浩一路も好んだ俳人としても知られ、浩一路作品の掛軸には、妻・清子夫人の肖像画と共に亞浪の句が残されています。

俳句の主眼を「まこと」におき、清澄な自然観照の作風を目指した亞浪の俳句は、時代の移り変わりとともに多くの詩人が敏感に感じた焦燥感が、諦念を秘めた「寂しさ」という形で表れたものではないでしょうか。現代もまた大きな時代の曲がり角にあると思います。過渡期という時代を過ごした一人の俳人の生き様を俳句から感じていただければと思います。